

短期大学に入学した社会人学生の意識調査に関する研究 ——社会人入学生と高卒ストレート入学生の比較——

風間悦子 荻原和夫 染谷きよ子

Expected analysis to adult students' women's junior college

～Demand comparison of the admission students who experienced the member of society and the admission students who have not experienced the member of society～

Etsuko Kazama Kazuo Ogiwara Kiyoko Someya

Abstract

In recent years, adults (the admission students who experienced the member of society) to go on to College is increasing^{*3}. Each year, Nagano Women's Junior College also has adult students. But what kind of education is appropriate to the people? However, it is not clear. Then, we did the questionnaire for adult students to know being “the reason for having entered a school of higher grade”, “with expectation [what] Nagano Women's Junior College to have been entered”, and “whether it to be satisfied with what”.

As a result, “it becomes an authority by a special field of study” and “the meaning of life is considered deeply” regarded more adult students than active-service entrance students (the admission students who have not experienced the member of society) as important. Moreover, adult students had satisfied more “relation of everyday life and the contents of the lesson”, and “overall qualities of the lesson” than active-service entrance students. Furthermore, more adult students than an active-service entrance student were the reasons for entrance into a school of higher grade of “it is advantageous to employment.”

By this, we would like to improve learning environment to meet the hope and to improve education technique.

Key word

Home economics subject of study Women's Junior College Adult students Lifelong learning

短期大学に入学した社会人学生の意識調査に関する研究

——社会人入学生と高卒ストレート入学生の比較——

風 間 悦 子

荻 原 和 夫

染 谷 きよ子

要 旨

近年、短期大学へ入学する社会人入学生は増加傾向にあり^{*1}、入学後は高校卒業後ストレートに入学した学生（ストレート入学生）と一緒に二年間学んでいる。短期大学における一般的な学習環境として両者には同等に考えた教育が行われている。しかし、一度実社会を経験した社会人入学生は、どのような目的意識をもって入学してくるのか、またそれに併せてどのような教育を行うことが適切か、さらに社会人入学生のライフステージに応じたその資質や能力を伸長するための学びの機会を提供できる学習環境が整っているかなど、明らかでない部分が多いのが現状である。

そこで、我々は今後も増えることが予想される、社会人入学生への可能な支援策に役立つ基礎資料とするため、当短期大学の生活科学科女子学生55名を対象に、社会人入学生とストレート入学生の意識調査を行い、以下の結果が得られた。

- 1) 専門分野で第一人者になる・・・社会人入学生は、ストレート入学生に比べ、専門分野で第一人者になることが自分の人生にとって重要であると思っていた ($P<0.005$)。
- 2) 人生の意味を深く考える・・・社会人入学生は、ストレート入学生に比べ、人生の意味を深く考えることが重要であると思っていた。 ($P<0.005$)。
- 3) 日常生活と授業の内容との関連・・・社会人入学生は、ストレート入学生に比べ、日常生活と授業の内容との関連について満足感を持っていた ($P<0.005$)。
- 4) 授業の全体的な質・・・社会人入学生は、ストレート入学生に比べ、授業の全体的な質に満足していた ($P<0.005$)。
- 5) 就職に有利・・・社会人入学生は、ストレート入学生に比べ、就職に有利なことをとても重要と思って本学に進学して来た ($P<0.005$)。

キーワード：生活科学科 女子短大生 社会人入学生 生涯学習

1. 背景・目的

現在本学生生活科学科では、入学選抜試験により、社会人入学試験を行っている。合格した社会人入学生は、高校卒業後社会に出ないで入学した学生（以下ストレート入学生）と一緒に学生生活に入る。2年間という短期大学士課程で、栄養士や介護福祉士といった国家資格、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員、中高老年期運動指導士、介護予防運動スペシャリストなどの協会資格の取得を目指して学生生活を送っている。更に学生会活動、サークル活動等を楽しみながら、幅広い人間性の向上に努めている。様々な年代、経験、価値観を持つ学生が、資格取得等という同じ目的に向かって学ぶことで相乗効果が生まれている。

社会人入学試験の受験資格は、入学時に満22歳以上若しくは2年以上職業経験があり、高等学校若しくは中等教育学校を卒業、または通常の課程による12年の学校教育を修了、または学校教育法施行規則第150条の規定により高等学校を卒業したと同等以上の学力があると認められる者、となっている。試験科目は、面接と小論文である。

一方で日本全国における社会人の学習意欲は高いといわれており、短期大学士課程（科目等履修生などの短期プログラムは除く）へ通学している社会人入学者数（通信の社会人入学者を除く）は、平成15年度の約1,600人をピークに、平成21年度は約1,400人まで減少、その後増加し平成22年度は約1,700人、平成23年度は1,500人となっている^{*3}。今後も社会人入学生がストレート入学生と共に在籍する可能性がある。

そこで本研究では、まず社会人入学生とストレート入学生の周辺にある要因を把握し、実態の背景とニーズを知ることを目的に、アンケート調査を行い、分析した。

これにより、社会人入学生とストレート入学生が混在した環境の中での、それぞれのニーズを、教職員が共有し、対応することが不可欠であると考えられる。社会環境、学習環境を整備し、学生のニーズ

に応じたカリキュラムになっているか、教育方法はどうかなど、今後の社会人教育を行う上での参考資料としたい。そして本学がその特性を活かし、機能を十分に発揮し、発展することを目的としたい。

2. 調査等の方法

2. 1 調査対象

本学に平成23年4月に入学し、平成25年3月に卒業した、当時生活科学科2年生55名を対象に実施した。

そのうち社会人入学生は10名、ストレート入学生は45名であった。

2. 2 調査項目

短期大学学生調査 JCSS（Japan College Student Survey）を用い、学生の価値観、短大での満足度、入学背景などを調査した。

個々の質問内容と回答項目の詳細は表1～3に示した。

2. 3 調査時期

平成24年12月に、無記名、自記式のアンケート調査を実施し、回収した。

2. 4 対象者の属性

対象者の年齢は、社会人入学生は21歳～57歳、ストレート入学生は18歳～20歳であった。

2. 5 解析方法

集計は、各項目について年代別クロス集計を行った後、社会人入学生とストレート入学生間比較のSpearman順位相関係数検定を行い、相関係数を算出した。

3. 結果

3. 1 あなたの人生にとって、次のことがらはどの程度重要ですか（表1）

(1) 社会人入学生が「重要」と回答した事項

『専門分野で第一人者になる』では、「とても重

要」「少し重要」と回答した者が、社会人入学生で80%、ストレート入学生で44.5%であり、社会人入学生は、ストレート入学生に比べ、専門分野で第一人者になることが自分の人生にとって重要であると思っていた ($P<0.005$)。

『人生の意味を深く考える』では、「とても重要」「少し重要」と回答した者が、社会人入学生で90%、ストレート入学生で60%であり、社会人入学生は、ストレート入学生に比べ、人生の意味を深く考えることが重要であると思っていた ($P<0.005$)。

(2) 社会人入学生、ストレート入学生が共に「重要」と回答した事項

『自分の生きたい人生を送る』『家庭を築く』『困っている人の役にたつ』『友人関係を大切にする』『家族を養う』『多様な社会や文化を理解する』では「とても重要」「少し重要」と回答した者が社会人入学生、ストレート入学生両者共多かった。両者の満足度に有意差は見られなかった ($P=0.094\sim P=0.943$)。

表1 あなたの人生にとって、次のことがらはどの程度重要ですか。

質問事項	回答肢	ストレート入学生 (n=45)		社会人入学生 (n=10)		相関係数	p値
		n	%	n	%		
自分の専門分野で第一人者になる	とても重要	3	6.7	3	30.0	0.30	<0.05
	少し重要	17	37.8	5	50.0		
	あまり重要でない	16	35.6	1	10.0		
	まったく重要でない	9	20.0	1	10.0		
自分の専門分野で仲間に認められる	とても重要	10	22.2	4	40.0	0.06	0.650
	少し重要	26	57.8	3	30.0		
	あまり重要でない	6	13.3	3	30.0		
	まったく重要でない	3	6.7	0	0.0		
社会の価値観に影響を与える	とても重要	3	6.7	1	10.0	0.22	0.112
	少し重要	15	33.3	6	60.0		
	あまり重要でない	16	35.6	2	20.0		
	まったく重要でない	11	24.4	1	10.0		
家族を養う	とても重要	18	40.0	6	60.0	0.11	0.405
	少し重要	18	40.0	2	20.0		
	あまり重要でない	5	11.1	1	10.0		
	まったく重要でない	4	8.9	1	10.0		
家庭を築く	とても重要	20	44.4	4	40.0	0.01	0.943
	少し重要	17	37.8	5	50.0		
	あまり重要でない	5	11.1	1	10.0		
	まったく重要でない	3	6.7	0	0.0		
会社などで出世する	とても重要	6	13.3	1	10.0	0.01	0.954
	少し重要	20	44.4	5	50.0		
	あまり重要でない	13	28.9	3	30.0		
	まったく重要でない	6	13.3	1	10.0		
お金持ちになる	とても重要	13	28.9	5	50.0	0.21	0.121
	少し重要	13	28.9	3	30.0		
	あまり重要でない	14	31.1	2	20.0		
	まったく重要でない	5	11.1	0	0.0		
困っている人の役に立つ	とても重要	17	37.8	7	70.0	0.23	0.094
	少し重要	19	42.2	2	20.0		
	あまり重要でない	2	4.4	0	0.0		
	まったく重要でない	7	15.6	1	10.0		
ビジネスで成功する	とても重要	5	11.1	2	20.0	0.17	0.397
	少し重要	15	33.3	4	40.0		
	あまり重要でない	11	24.4	3	30.0		
	まったく重要でない	14	31.1	1	10.0		

質問事項	回答肢	ストレート入学生 (n=45)		社会人入学生 (n=10)		相関係数	p値
		n	%	n	%		
人生の意味を深く考える	とても重要	8	17.8	6	60.0	0.33	<0.05
	少し重要	19	42.2	3	30.0		
	あまり重要でない	11	24.4	0	0.0		
	まったく重要でない	7	15.6	1	10.0		
地域社会の活動に参加する	とても重要	5	11.1	3	30.0	0.10	0.479
	少し重要	22	48.9	3	30.0		
	あまり重要でない	11	24.4	3	30.0		
	まったく重要でない	7	15.6	1	10.0		
人権意識の向上に貢献する	とても重要	5	11.1	1	10.0	0.17	0.218
	少し重要	14	31.1	6	60.0		
	あまり重要でない	18	40.0	2	20.0		
	まったく重要でない	8	17.8	1	10.0		
政治の動向に関心を持つ	とても重要	1	2.2	2	20.0	0.19	0.159
	少し重要	17	37.8	5	50.0		
	あまり重要でない	14	31.1	0	0.0		
	まったく重要でない	13	28.9	3	30.0		
地域社会のリーダーになる	とても重要	0	0.0	2	20.0	0.10	0.459
	少し重要	11	24.4	2	20.0		
	あまり重要でない	16	35.6	2	20.0		
	まったく重要でない	18	40.0	4	40.0		
精神性や信仰心を生活に反映させる	とても重要	4	8.9	2	20.0	0.23	0.086
	少し重要	7	15.6	4	40.0		
	あまり重要でない	19	42.2	2	20.0		
	まったく重要でない	15	33.3	2	20.0		
多様な社会や文化を理解する	とても重要	7	15.6	4	40.0	0.25	0.062
	少し重要	22	48.9	5	50.0		
	あまり重要でない	9	20.0	0	0.0		
	まったく重要でない	7	15.6	1	10.0		
友人関係を大切ににする	とても重要	31	68.9	7	70.0	-0.02	0.904
	少し重要	9	20.0	1	10.0		
	あまり重要でない	3	6.7	1	10.0		
	まったく重要でない	2	4.4	1	10.0		
自分の生きたい人生を送る	とても重要	32	71.1	9	90.0	0.14	0.288
	少し重要	11	24.4	0	0.0		
	あまり重要でない	0	0.0	0	0.0		
	まったく重要でない	2	4.4	1	10.0		

3-2 あなたは、本学にどれくらい満足していますか（表2）

(1) 社会人入学生が「満足」と回答した事項

『日常生活と授業の内容との関連』では、「とても満足」「少し満足」と回答した者が、社会人入学生で80%、ストレート入学生で37.8%であり、社会人入学生は、ストレート入学生に比べ、日常生活と授業の内容との関連について満足感を持っていた（ $P<0.005$ ）。

『授業の全体的な質』では、「とても満足」「少し満足」と回答した者が、社会人入学生で70%、ストレート入学生で46.7%であり、社会人入学生は、ス

トレート入学生に比べ、授業の全体的な質に満足していた（ $P<0.005$ ）。

(2) 社会人入学生、ストレート入学生が共に「満足」と回答した事項

『専門科目の授業』『教養教育の授業』『将来のキャリア計画に対する授業内容の有効性』『短大の中で
の学生同士の一体感』『教職員による学生支援体制』では「とても満足」「少し満足」と回答した者が社会人入学生、ストレート入学生両者共に多かった。両者の満足度に有意差は見られなかった（ $P=0.324\sim P=0.640$ ）。

表2 あなたは、本学にどれくらい満足していますか。

質問事項	回答肢	ストレート入学生 (n=45)		社会人入学生 (n=10)		相関係数	p値
		n	%	n	%		
教養教育の授業	とても満足	3	6.7	2	20.0	0.19	0.173
	満足	14	31.1	5	50.0		
	どちらでもない	25	55.6	3	30.0		
	不満	3	6.7	0	0.0		
専門科目の授業	とても満足	4	8.9	3	30.0	0.09	0.503
	満足	22	48.9	3	30.0		
	どちらでもない	16	35.6	3	30.0		
	不満	3	6.7	1	10.0		
授業の全体的な質	とても満足	0	0.0	3	30.0	0.27	<0.05
	満足	21	46.7	4	40.0		
	どちらでもない	15	33.3	2	20.0		
	不満	9	20.0	1	10.0		
日常生活と授業の内容との関連	とても満足	3	6.7	3	30.0	0.31	<0.05
	満足	14	31.1	5	50.0		
	どちらでもない	24	53.3	1	10.0		
	不満	4	8.9	1	10.0		
将来のキャリア計画に対する授業内容の有効性	とても満足	4	8.9	2	20.0	0.13	0.324
	満足	15	33.3	4	40.0		
	どちらでもない	22	48.9	3	30.0		
	不満	4	8.9	1	10.0		
教員と話をする機会	とても満足	1	2.2	2	20.0	0.07	0.614
	満足	17	37.8	2	20.0		
	どちらでもない	23	51.1	6	60.0		
	不満	4	8.9	0	0.0		
教職員による学生支援体制	とても満足	3	6.7	2	20.0	0.09	0.529
	満足	17	37.8	3	30.0		
	どちらでもない	20	44.4	5	50.0		
	不満	5	11.1	0	0.0		
短大の中での学生同士の一体感	とても満足	1	2.2	2	20.0	0.06	0.640
	満足	19	42.2	3	30.0		
	どちらでもない	19	42.2	3	30.0		
	不満	6	13.3	2	20.0		
短大における学生交流の機会	とても満足	4	8.9	2	20.0	-0.06	0.635
	満足	19	42.2	1	10.0		
	どちらでもない	19	42.2	7	70.0		
	不満	3	6.7	0	0.0		

3-3 あなたが本学に進学した理由として次の事柄はどの程度重要でしたか（表3）

(1) 社会人入学生が「とても重要」と回答した事項

『就職に有利』では、「とても重要」と回答した者が、社会人入学生で80%、ストレート入学生で35.6%であった。

「とても重要」「少し重要」と回答した者が、社会人入学生で100%、ストレート入学生で75.6%であり、社会人入学生は、ストレート入学生に比べ、就職に有利なことをとても重要と思って本学に進学

して来た（ $P<0.005$ ）。

(2) 社会人入学生、ストレート入学生が共に「重要」と回答した事項

『資格をとるために必要だった』『本学で学ぶ内容に興味があった』はそれぞれ100%、『自宅から通学できる』は90%であった。これらの事項は、社会人入学生、ストレート入学生両者共に多かった。両者の重要度に有意差は見られなかった（ $P=0.324\sim P=0.640$ ）。

表3 あなたが本学に進学した理由として、次の事柄はどの程度重要でしたか。

質問事項	回答肢	ストレート 入学生 (n=45)		社会人 入学生 (n=10)		相関係数	p値
		n	%	n	%		
自宅から通学できる	とても重要	24	53.3	8	80.0	0.21	0.125
	少し重要	11	24.4	1	10.0		
	あまり重要でない	4	8.9	1	10.0		
	まったく重要でない	6	13.3	0	0.0		
就職に有利	とても重要	16	35.6	8	80.0	0.35	<0.05
	少し重要	18	40.0	2	20.0		
	あまり重要でない	4	8.9	0	0.0		
	まったく重要でない	7	15.6	0	0.0		
四年制大学より 早く就職できる	とても重要	9	20.0	3	30.0	-0.12	0.398
	少し重要	15	33.3	1	10.0		
	あまり重要でない	12	26.7	1	10.0		
	まったく重要でない	9	20.0	5	50.0		
本学で学ぶ内容に 興味があった	とても重要	16	35.6	6	60.0	0.25	0.066
	少し重要	17	37.8	4	40.0		
	あまり重要でない	8	17.8	0	0.0		
	まったく重要でない	4	8.9	0	0.0		
専門学校より 幅広い勉強が できる	とても重要	7	15.6	5	50.0	0.24	0.081
	少し重要	24	53.3	3	30.0		
	あまり重要でない	7	15.6	1	10.0		
	まったく重要でない	7	15.6	1	10.0		
学生生活を楽し んでみたかった	とても重要	13	28.9	4	40.0	-0.03	0.835
	少し重要	21	46.7	2	20.0		
	あまり重要でない	7	15.6	2	20.0		
	まったく重要でない	4	8.9	2	20.0		
本学の校風に 魅力があった	とても重要	3	6.7	1	10.0	0.19	0.160
	少し重要	16	35.6	6	60.0		
	あまり重要でない	18	40.0	2	20.0		
	まったく重要でない	8	17.8	1	10.0		
本学のキャンパス がきれいだった	とても重要	1	2.2	1	10.0	0.26	0.059
	少し重要	16	35.6	6	60.0		
	あまり重要でない	16	35.6	2	20.0		
	まったく重要でない	12	26.7	1	10.0		
資格をとるために 必要だった	とても重要	29	64.4	9	90.0	0.22	0.111
	少し重要	13	28.9	1	10.0		
	あまり重要でない	0	0.0	0	0.0		
	まったく重要でない	3	6.7	0	0.0		
大学に編入する こともできる	とても重要	9	20.0	2	20.0	-0.07	0.609
	少し重要	7	15.6	2	20.0		
	あまり重要でない	15	33.3	1	10.0		
	まったく重要でない	14	31.1	5	50.0		

4. 考 察

本研究は、社会人入学生、ストレート入学生の意識の差を把握する目的でアンケート調査を実施した。限られた年度で実施したことから、対象者は偏りがある集団であるため、この調査結果を一般的なデータとするのは難しいという問題点がある。

しかし近年、短期大学へ入学する社会人が増加傾

向にあり、成人についての生涯学習の必要性和重要性が指摘されており*¹、さらに社会人入学生については、これから増えるという予想がされている*³。また、国際的にもOECDにおいて、成人に必要とされる能力を調査しようとの試みもあり*²国内外で、成人が社会の変化に対応するための力等についての関心の高まりが見られる。

本研究結果では、社会人入学生は『専門分野で第

一人者になる』『人生の意味を深く考える』を自分の人生にとって重要であると考えていた。物質的な豊かさに加え、精神的な面での豊かさを求めて入学する社会人の教育に取り組めるよう、カリキュラムや教育方法を検証したい。

また、『日常生活と授業の内容との関連』『授業の全体的な質』に社会人入学生は、ストレート入学生に比べ、満足していた。変化の激しい社会においては、日常生活において各個人が自立した一人の間人として力強く生きていく必要がある。そのための総合的な力を身に付けるために、状況に対応した内容や学習効果を教育的観点から妥当であるかの判断材料としたい。

また、『就職に有利』を社会人入学生は、ストレート入学生に比べ、とても重要と思って本学に進学して来ている。本学は、栄養士や介護福祉士といった国家資格、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員、中高老年期運動指導士、介護予防運動スペシャリストなどの協会資格の取得率が高い。そして大多数がその資格を活かした専門的・技術的職業に就き、例年就職率は100%である。今後は産業界のニーズと教育内容のミスマッチはないか、資格や修学内容に対する社会的認知がなされているか等を検証・分析したいと考える。

一方『自分の生きたい人生を送る』『家庭を築く』『困っている人の役にたつ』『友人関係を大切にする』『家族を養う』『多様な社会や文化を理解する』は社会人入学生、ストレート入学生が共に自分の人生にとって「重要」と回答した割合が多かった。これは、生涯にわたって家族や友人を大切にし、健康で生きがいのある人生を過ごし、その中でそれぞれの自己実現を図ることを求めていることが読み取れる。同じ目標を持って短大生活を過ごした仲間やご指導いただいた先生方は、一生の宝物になるであろう。

さらに『専門科目の授業』『教養教育の授業』『将来のキャリア計画に対する授業内容の有効性』『短大の中での学生同士の一体感』『教職員による学生支援体制』は社会人入学生、ストレート入学生が共に本学に「満足」と回答した割合が多かった。我々

は卒業生に対して、日進月歩の知識や技術の進展著しい職場の中で、それらが陳腐化しないよう常に更新する必要がある。

また、体育祭、大学祭など学生会行事を通じて学生同士の一体感が生まれている。それが心豊かな生活につながり、また、職業生活に必要な知識・情報・技術等を習得することにつながっていると思われる。

加えて『資格をとるために必要だった』『本学で学ぶ内容に興味があった』は社会人入学生、ストレート入学生が共に本学に進学した理由として「重要」と回答した割合が多かった。入学して学ぶということは、それぞれがその興味や内容に基づき、自らを深めるために行う個人的な活動としての側面がある。資格を取得し、それを活かして就職して働き、社会に貢献することは、我が国の現状及び将来を見据えると、社会全体の活性化につながり、持続的発展につながるものであると考える。

5. 結 論

本研究は、社会人入学生とストレート入学生の認識の現状と課題について、アンケート調査をもとに検討を加えた。研究結果では、社会人入学生は『専門分野で第一人者になる』『人生の意味を深く考える』を自分の人生にとって重要であると考えていた。また、『日常生活と授業の内容との関連』『授業の全体的な質』に社会人入学生は、ストレート入学生に比べ、満足していた。また、『就職に有利』を社会人入学生は、ストレート入学生に比べ、とても重要と思って本学に進学して来ている。一方『自分の生きたい人生を送る』『家庭を築く』『困っている人の役にたつ』『友人関係を大切にする』『家族を養う』『多様な社会や文化を理解する』は社会人入学生、ストレート入学生が共に自分の人生にとって「重要」と回答した割合が多かった。さらに『専門科目の授業』『教養教育の授業』『将来のキャリア計画に対する授業内容の有効性』『短大の中での学生同士の一体感』『教職員による学生支援体制』は社会人入学生、ストレート入学生が共に本学に「満足」と回答した割合が多かった。加えて『資格をとるために必

要だった』『本学で学ぶ内容に興味があった』は社会人入学生、ストレート入学生が共に本学に進学した理由として「重要」と回答した割合が多かった。

本学も社会人の受験生が毎年増加傾向にある。この結果を、今後の教育を行う上での参考資料としたい。

文 献

^{*1} 中央教育審議会「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～（答申）」平成20年2月19日http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/080219-01.pdf

^{*2} OECDが提案する PIAAC (Programme for the International Assessment of Adult Competences) 成人対象の調査。個人や社会にとって必要不可欠で普遍的な技能について調査測定することを目的とする。

^{*3} 文部科学省：「学校基本調査」大学の入学定員・入学者数等の推移 社会人入学者数（推計）の推移（短期大学）